

「男と女、神の似姿」

岩井健作牧師

コヘレト7:23-29, マルコ10:6-9

「神は人間をまっすくに造られた」(コ7:29)

- 1、今日お読み戴いた、マルコ福音書10章6節から9節のところは、良く結婚式で朗読される聖書のテキストである。男と女の対等性、「人は父母を離れて」という自立性、「二人は一体となる」という共同性をよく表し、「神が結び合わせたものを人は離してはならない」とは当時、律法を自分に引き寄せ都合よく解釈し、安易な離婚をしたファリサイ派をイエスが厳しく批判した言説である。「男と女」の関係は神の創造の秩序(創世記1:27)に属し、「神の似姿」を宿している。相互主体の関係存在として祝福されていることを良く言い表したテキストである。いわば、聖書では大事なテキストである。しかし、このテキストが諸刃の剣となって性的少数者(セクシャル・マイノリティー)を差別しているとは、身近な同性愛者の牧師の友人の話である。今のキリスト教界の現実であろうか。
- 2、性は「男か女か」では分類出来ない。①Sex セックス(生物学、医学的な性、性別、男女の性交渉、「生まれつきの性」)。②Genderジェンダー(社会的性、文化的性。文法の性、「生まれてから後にあたえられた性」「男らしさ」「女らしさ」)。③Sexuality セクシュアリティ(男か女かに二分出来ない性、同性愛、性同一性障害、トランス・セクシャル、バイ・セクシャル、「自分らしさとしての性」「自分で選び取った性」)
- 3、朝日新聞(2007/9/9-23 3回掲載「家族-性を越えて」)の土肥いつき(45)さんのこと。高校の数学の教師、生徒からしたわれている。家庭はパートナーの淳子さんと15歳の息子と10歳の娘がいる。性同一障害に悩み、9年ほど前に妻にそのことを告げる、淳子さんは天地がひっくり返るほどびっくり。わたしの謙一郎を返してと苦しんだという。しかし、それから徐々に周囲の協力により、自分のセクシュアリティに生きるようになる。名前も裁判所の決定で「謙一郎からいつきへ」。女性ホルモン投与も開始。その経過がレポートされている。いつきさんのご父君は同志社大学神学部キリスト教史の教授。子息から性同一障害を告白されたのは70歳半ばであったという。
- 4、コヘレトは7章23節以下で、イスラエル民族の女性差別の歴史と現実を的確に把握する。「死よりも、震よりも苦い女」(26)「千人に一人として、良い女は見いださなかつた」(28)。この現実を「神は人間をまっすくに造られた」(29)の一句で批判する。趣意は創世記と変わらない。「まっすく(ヤーシャル)」は「意のままに、気に入る、心に適う、心のまま、という意味、正しい、良い、まっすく」という意味。「神はご自分の意に適うように人の創造された」と捉える。男か女かという二分法を越えている。ここに目を留めたい。「神の意のまま」とは、男と女の対等性、それぞれの自立性、その上で終末論的意味での共同性があるだろう。セクシュアル・マイノリティーは3パーセントくらい何時もいるという。「性差別」の問題に目覚め、暖かい生き方をする教会でありたい。